

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

指導概要

	指導概要
1	・保守用ツールの作成(設計、製造、試験および適用の工程を体験し、管理の必要性を学ぶ) ・新システムの提案活動(提案に必要な情報収集、および基礎となる試験の取りまとめと行い、提案のために必要な業務活動を学ぶ)
2	対応業務だけでなく、その背景にある事業や市場についても意欲的に学び、業務へのフィードバックを心がけること。
3	業務遂行に関しては、開発はチームで行うため、情報の共有が重要であることや、特に設計資料は後から他人が見ても分かるように作成する必要があることをアドバイスした。 また、Off-JTとして飲み会などに参加してもらい、プロジェクトメンバとの交流を深めることも重要であることをアドバイスした。
4	指導員をアサインし、業務のあらゆる場面で相談にのるようにした。
5	進行中のプロジェクトタスクの概要を説明し、学生さんが担当するタスクの説明を行った。さらに、こちらが与えたタスクの他に、学生さんのオリジナルのアイデアを実装し、既存の機構を組み合わせ動作するようなシステム構築、実装をお願いした。また、既存システムの拡張が必要なため、既存製品の説明、動作環境など説明を行った。
6	フリーソフトの性能評価と、関連する技術の文献調査を行った。評価方法については本人に任せましたが、情報発信のスキルを磨くことを重視し、調査結果の口頭発表と、報告のレポートを書くことを中心に指導を行った。
7	特定の指導員をアサインし、業務遂行のみならず、様々な面で指導・フォローを行った。また、受入グループ以外の者とも繋がりを持ち、知識を深めてもらえるようミーティングや見学会などを実施した。 インターン終了時には、関係者を集めた報告会を実施し、発表内容や実習成果などについて、各関係者より評価や今後へのアドバイスを伝えた。
8	まず、LinuxサーバマシンとWeb Application Serverのセットアップと、EJBアプリケーションのインストール作業を行ってもらいました。その後、EJBアプリケーションのパフォーマンスとメモリ使用量をKSMの設定を変えながら測定し、それらの相関を見つけるための調査をしました。
9	・金融チャネル系のサービスを企画。サービス内容、システム構成を検討し、事業計画を立案。 ・職場での打合せ、プレストへの参加やショールーム見学等により、実際の現場を体験できるように設定。 ・若手・中堅層の指導員をアサインし、適宜アドバイスを実施。
10	同年代のトレーナーと一緒に、アクセス制御の開発を通じて、開発サイクルと品質に対する企業の取組を理解するため、グループ開発を経験した。特に、製品を使う立場(ユーザ側)から見た製品への価値感を常に意識する事の重要性を体験出来た、と感じている。
11	仮想基盤上にLinuxOSを複数立ち上げ、フリーソフト5種類程のインストール及び設定、動作までの手順を確認し、インストール手順書を作成する。手順書の作成に当たり、その目的や曖昧な手順の排除、誰に対しての資料なのか等を明確にして作成するよう指導。
12	・定期的な進捗報告(報告の仕方、ポイント等の指導) ・レビュー実施の仕方、受け方など ・指導員のアサイン ・終了後の報告会実施
13	ワークスタイル改革・モバイル端末向け技術整理とソリューションアーキテクチャの確立というテーマで、金融機関向け新規事業企画書の作成を指導した。実習期間を調査と企画の2つのフェーズに分け、指導員をアサインした上、定期的な資料レビューや意見交換を実施し、企画書として仕上げてもらった。学生には毎日の作業内容や課題等を日報という形で提出してもらい、その内容へのフィードバックも実施した。
14	社会人基礎力育成ソリューションの発案、現行ソース解析をしながらのプロトタイプシステム作成、モックアップの作成、既存システム(大学会計システム)の運用支援作業への同行、バージョンアップ作業の支援
15	2名のトレーナーによるOJT。加えて、朝会の実施、日報の提出による指導。 インターン業務に関する発表会を実施。
16	職場先輩を2人つけ、実際に指導、作業を見てもらった上で、テーマに取り組んでいただいた。 事前課題もこなしており、のみこみが早く、課題整理も的確に行っており、大きな問題はなかった。
17	目標をどこに据えるか(参加者にどうしてほしいか)、目標を達成するにはどうすればよいか、を意識することで資料作成がスムーズになるという点
18	開発工程の体験、およびデータベース製品に対する理解向上
19	お客様からいただいた要求事項をどのように製品に反映させていく過程を体験いただいた。製品に反映させていく中で、仕事に限らず日常生活でも活用できる気づきがあったかと思います。

20	試作ソフトのロジック検証という課題を与え、検証方法の立案・検証ツールの作成・検証という一連の流れを自ら考え実施して頂いた。特に検証方法、ツールについては自ら調査、検討してもらったが、限られた期間内でロジックを検証するという本来の業務目的を見失わないように適宜指導した。
21	・インターン生+幹部・リーダを含めた8人で業務説明・課題設定・調査・開発・テストを行った ・クラウドに関しての実戦経験を持っていたため、クラウド運用の観点でツール開発していただいた ・未経験の言語(Python)のため学習時間も含めて開発期間を長く取りレビューを念入りに行った ・仕様書やテストなど大学では触れる機会が少ないと思われる成果物の作成に取り組んでいただいた
22	手法をツール化するにあたり、既存ツールの調査、機能の仕様検討、試作版の実装まで担当していただいた。
23	受け入れ時に研究テーマの目的と状況を説明し、担当タスクを設定した。その後は先輩社員の指導、アドバイスを受けつつ、日次定例で作業進捗と作成物の確認を行い、指導を行った。
24	技術的な質問への回答を行う。 作業の方針・目的を合わせる。
25	設計開発支援ツールの一部機能について、要求分析～実装までを担当。開発に必要なスキルの習得をサポートした。要求→仕様化に関してはニーズ分析にいろいろとアドバイスを行った。いかに要求を仕様化するのか、現場での課題問題を意識しながら要求化を行った。実装上の問題、課題はレビューを実施しながら、お互いに理解を深めながら解決を図った。
26	全体の作業量を見積もって、スケジュール感をもって業務に取り組むこと 読者を意識したドキュメントの作成方法 解決すべき課題のリストアップと優先度付け、困難な課題を抱え込まないための施策など
27	トレーナ相当を1名アサインしました。技術的なレクチャ(工程の進め方、試験の実施方法、専門的な内容)に加えて、社会人としての心構え(組織に貢献すること)や就職までの期間に身に付けて頂きたい事など指導させて頂きました。
28	製品を用いたSNSデータの分析のためのリソース開発と、それを活用するための画面開発を担当していただきました。実際の製品に触れることで、今後研究を進める上での課題が見えたと思います。
29	弊社の外部向け展示会(受け入れ部門の技術力発表の場)において、デモ展示する機材(ソフトウェア)の開発に携わって頂きました。出来るだけ、弊社の強みである「モノづくり」を体験して頂く趣旨で業務を選びました。指導体制については、リーダクラスおよび学生に近いレベルの担当(2年目社員)の2名体制を取り、充実した指導が行える環境を整えると共に、弊社社員の指導力アップを期待できる体制としました。
30	使用するプログラム言語が学生にとって初めての言語でしたので、課題に取り組む前に簡単な演習をこなすことで課題に必要な基本的な知識を習得してもらうようにしました。基本的な知識を身につけた状態で課題に取り組むことができましたので、プログラム言語の記述に関してはほとんど詰まることなく行っていたと思います。
31	EC系のシステム開発を経験したいとのことだったため、他社サイトの比較調査、フレームワークを使用した実装研修、お客様からいただく技術課題についての技術検証などを、プロジェクト内の担当の元、業務遂行してもらっています。多くの人数でプロジェクトを進める上でのWBSによる管理や、サイト構築に関する技術のみでなく、来年就職活動を実施するにあたって重要となるであろう、「なぜEC系のシステムに興味があるのか」などの志望理由を見つめ直すキッカケにして欲しいという話しをしています。
32	開発中機能の効果について、様々な解析の切り口を考えて、解析して頂いた(切り口を考えるにあたり、発生する負荷について勉強)。研修最終日には、部長、室長に対し、実習内容を資料にまとめて発表して頂いた(資料の作成に関しては、内容だけでなく、見易さにも配慮する用に指導)。
33	作業遂行の上での作業プロセスの説明。作業プロセス上で、関連する業務作業担当が誰かを説明し、ヘルプが必要な場合のアクションの取り方を指示。適時の進捗確認と、実施作業内容へのフィードバック。
34	指導者として主担当者1名、副担当者3名をアサインしました。 基本的に毎日、朝と夕方に30分程度のミーティングを実施して状況の確認と相談を行っていました。 インターン後に向けたアドバイスとして、入社1年目で重点的に学ぶ「聞く」「書く」「話す」スキルについて、社会人で求められるレベル感や、今後の改善点等をお伝えしました。
35	複数のアドバイザを設置するなどのサポート体制を準備した上で、若手社員とほぼ同様のタスクをアサインし、企業でのシステム開発を肌身で感じる事が出来るようプロジェクトを進行した。また、チームでアジャイル手法を用いた実開発をベースに、様々な部署の業務へオブザーブ参加するなど学校ではなかなか経験できないことを中心にカリキュラムを構成した。
36	業務アプリケーションを開発する際の、仕様書作成/レビュー/開発/テスト/日々の進捗報告といった一連の作業を体験してもらうよう心がけました。
37	商用製品の解析精度検証を実施した。急遽対応が必要になった実際の顧客製品を対象とした解析作業を行い、お客様向け報告書を作成した。さらに、他の解析ソフトウェアをLinux並列計算環境にインストールし、機能検証、解析精度の検証を行い、機能検証、解析精度検証結果に基づいて、運用手順書を作成した。
38	自部門の現行業務の概要と問題点を説明し、それを解決するには、どのようなITツールが必要かを話しあい、実際に設計・実装してもらった。

39	海外オフショアに委託開発をお願いしたバッチ系納品物(一部分)に対し、JUnit / DbUnitを利用して受入テストを実施してもらいました。今回対応したシステムの仕様やDB設計、IF設計等は1ヶ月で覚えられる規模ではなかったため、あまり仕様に関係せずに機械的にテストできる個所を手伝ってもらいました。
40	サービス提案と業務補佐の2軸で作業を依頼した。基本はメンターと朝夕・適宜相談しながら作業を進めたが、メンター以外のメンバへの発表・相談の場を設け、より多くのメンバと情報交換できるようにした。また、部署の業務・専門性の理解のために、部署内の有識者にて説明の機会を設けた。また、お客様先へ訪問し、業界・外からみた弊社の理解を深める機会を設けた。
41	・本人が検討したテーマに対しての内容検討について、本当にそのテーマでよいのかの疑問の投げかけ、どのような調査を行うべきかの指導他を行いました。社員1名をブラザーとして付け、必要に応じて中間レビューを行いました。
42	・プロジェクト概要/開発作業説明 ・指導者のアサイン ・打ち合わせの内容のフォローアップ
43	クラウドサービスの運用ツール開発を実習することで、高品質なサービスを実現するにあたっての考え方や、実現のために必要な技術や開発手法について体得してもらう。
44	・業務システムの月間事務量集計作業自動化ツール作成: エクセルVBA技術習得 ・業務システム開発テスト実施: 業務案件内容理解、システム設計書理解、システムテスト方法習得
45	作業全体のアドバイスをを行う指導員により、以下を含む進捗状況確認や技術的な質問対応、助言などを実施した。 ・仕様についての説明と技術調査の方法についてのアドバイス ・説明資料の構成や、ストーリーの組み立て方法についての説明
46	手順とスケジュールを考えながら仕事を進めるように指示しました。
47	ソフト総合テストをテーマに実習していただきました。尚、実際の業務とは切り離れた実習テーマを与えました。指導員には開発を担当している若手をアサインしました。
48	付与された業務に対して、各ステップを設けて結果に対する検証を実施する習慣をつけさせた。業務では正確さと迅速さ、優先順位が重要である事を指導。
49	課題を解決するためのLinuxカーネルのビルドとデバッグなどの開発技術。その他に、作業をするにあたり必要となるOS概要。